

中学生平和体験広島研修報告

21世紀を核兵器のない
「平和と人道の世紀」とするために!!

今年で4回目となる町内の中学2年生6名を代表とする「中学生平和体験広島研修」をこの7月28日から30日まで実施してきました。研修では、被爆者による被爆体験講話やヒロシマピースポランテアの方の解説による広島平和記念資料館の展示・平和記念公園周辺の慰霊碑等の体験学習を行いました。

被爆から59年が経過し、次の世代を担う若い子どもたちに被爆の実相を伝え、平和の大切さを理解してもらうことが大きな課題となっています。

今回の研修を通じて自分の目で見たり、聞いたり、感じたことについて報告します。

人類史の聖地
ヒロシマに立つ

富士見高原中学校
教諭 北原 憲 康

近年、われわれは「人類」という言葉を用いている。「人類共有の「人類の未来」など、「人類」という言葉は肯定的な言葉と共に使用されている。

それとは対象的に、歴史学の中で人類史という概念が近年注目されている。人類史とは人間(ヒト)の誕生から400万年の過程をたどると考えていたが、ヒロシマの地に立つと、その認識は大きく転換させられた。

私が、このヒロシマに立ち感じた人類史とは、1945年8月6日人類史元年であり、人類が絶滅する過程をたどる歴史という事である。ヒロシマを見つめ、世界を見つめ、自己を見つめた時、世界から隔絶された私に気がつきま

した。

自己・地域・日本・世界を统一的に把握しヒロシマで得た、人類史の認識を深め現在の問題を常にヒロシマを中心に据え、世界平和を考えたい。

「平和」ということ



富士見高原中学校
2年1組 水上 智之

今回、広島に行つて感じたことがあります。それは「平和」ということです。被爆者の高橋さんは、平和についてとても大切に思っていました。ヒロシマピースポランテアの方も、平和であることの大切さを説明してくれました。今、世の中は平和なのでしょう。か。平和という人もいますでしょう。原爆どころか、日本では戦争もし

平和学習

てません。しかし、簡単に平和と言ってしまうのでしょうか。日本を考えると、毎日のように事件が起きています。殺人、窃盗などが、沢山起こっています。世界となると、もっと危険です。戦争をしている国々や、核兵器を保有している国があります。この状態は平和とはとても言えません。

「平和」は大切なことです。しかし、誰もが考えていけないといけません。この状態を、皆が認識するのが、「平和」への一歩です。

私は今まで「戦争」という物に無関心で、どちらかというところを避けていました。しかし、イラク戦争では日本人の犠牲者も出てしまいました。自分には全く関係のない遠い国の事ではない事にやっと気がつきました。地球上で初めて原子爆弾が落とされた広島を訪れ、実際に原爆ドームや被爆記録を見ると、戦争のむごたらしさや核兵器の恐



富士見高原中学校
2年1組 加々見 茜

ろしさは想像以上でした。戦争とは、どれだけ人を苦しめ不幸をもたらすのか、そして多くの人が後の世代に渡つてまで障害を受けているかを知りました。

それでもまだ開発が進み、当時より強力な核兵器が存在する今、何故核戦争阻止、核兵器廃絶にならないのか、もっと世界情勢にも目を向け考えていきたいと思いましたが、私達ができる事や、しなくてはならない事は何かも考えていかなければいけないと思いました。鶴を空に掲げ平和を願う「原爆の子の像」を前に自分が生きていく事に感謝し、そしてどんな事があっても命を大事にし、精一杯生きる事の大切さを感じました。